

外国人留学生の言語意識についての現状調査(1) —平成24年度国語に関する世論調査に連動して—

A study of the Consciousness on Japanese Language by International Students Part 1
—In relation to The Public Opinion Poll on Japanese Language 2013—

中 村 朱 美
Akemi NAKAMURA

〈要旨〉

平成25年3月、平成24年度国語に関する世論調査が実施され、同年9月、文化庁文化部国語課により、その報告書が公開された。この世論調査に連動し、外国人留学生における言語意識を探るべく、調査票によるアンケート形式により「言葉遣い、言葉の意味や使い分け」、「異字同訓の漢字の使い分け」、「慣用句や言葉の意味」の3項目について、漢字圏である中国からの留学生を対象として調査を行った。世論調査における傾向に対して顕著な差異が見られる項目については、母語の影響等が推測されるものもあり、その言語的背景への考察を進めた。また、本調査結果の分析により、漢字圏や上級レベルの日本語学習者への日本語教育に資する新たな知見を得ることができた。

〈キーワード〉

言語意識、漢字圏、日本語、世論調査、外国人留学生

1 はじめに

平成25年9月、文化庁文化部国語課より平成24年度に実施された国語に関する世論調査についての報告書⁽¹⁾が上梓された。この調査は「日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する」ことを目的とし、文化庁が平成7年度から毎年実施しているものである。平成24年度の調査は平成25年3月に全国16歳以上の男女個人を対象に実施され、標本数は3,000人、調査員による面接聴取法によって行われた。調査対象総数は3,523人、有効回収数は2,153人、有効回収率は61.1%である。

調査項目は、「コミュニケーション」、「外来語や外国語などのカタカナ語」、「国語に関する知識や能力」、「文字の手書き」、「手紙の作法」、「言葉遣い、言葉の意味や使い分け」、「異字同訓の漢字の使い分け」、「慣用句や言葉の意味」の8項目である。これらの調査項目に対して18の質問内容が設定されている。

筆者は、外国人留学生に対する日本語教育を担当しているが、日本で日本語を学ぶ外国人留学生の言語意識・日本語意識を探るべく、調査項目の内の「言葉遣い、言葉の意味や使い分け」、「異字同訓の漢字の使い分け」、「慣用句や言葉の意味」という3項目を取り上げ、外国人留学生の日

本語意識に関する現状調査を行った。

外国人留学生への調査は、島田昌彦金沢大学名誉教授の指示に基づくもので、島田名誉教授は、かつて文化庁文化部国語課に勤務され、国語施策に中心にかかわられており、用字・用語の分野における第一人者である。

本稿では、外国人留学生に対する日本語への意識調査の結果について、平成24年度国語に関する世論調査の結果を対照させつつ考察する。

2 外国人留学生に対する調査内容

2-1 調査項目

国語に関する世論調査では、「言葉遣い、言葉の意味や使い分け」、「異字同訓の漢字の使い分け」、「慣用句や言葉の意味」の3項目に対して、「言葉の意味や使い方がわからないときにどうするか」、「文章を書くときに漢字の選び方で迷ったこと」、「漢字に直すとしたらどれを使うか」、「聞いたことのある言い方」、「慣用句等の意味」、「慣用句の言い方」という質問内容が設定されている。

これらの質問内容について、金沢星稜大学で日本語を学ぶ13人の外国人留学生から、調査票によるアンケートという形式で回答を得た。調査は平成26年1月21日に1年次の日本語クラスで、同月24日に2年次の日本語クラスにおい

て実施したものである。文化庁の報告書に掲載されている調査票は単純集計結果が付記されていたため、その集計の箇所については削除し、調査票として使用した。13人はすべて中国からの留学生であり、女子学生は11人、男子学生は2人、年齢は21歳から26歳である。13人のうちのほとんどの学生が日本語能力試験N2以上を取得している。

以下、『平成24年度国語に関する世論調査』における調査票の該当箇所を掲載し、Qで示される質問内容を示すが、上述したように報告書における集計の箇所は削除したものとなっている。

なお、Q13については複数回答となっており、M.A.はMultiple Answers, Q16に続くSQはSub-Questionの省略形である。Q13の回答数は41、Q14からQ18については、未回答が若干あり、Q17の回答数は12～13となっているが、それぞれ未回答を除き、集計している（小数点第2位を四捨五入した百分比であり、0の表示は回答者がいなかったことを示すものである）。

また、（ ）書きで示した百分比は、世論調査の集計における男女20～29歳の数値であり、《 》書きで示した百分比は、世論調査の集計における学生の数値である。いずれも調査対象とした中国人留学生と同年代の集計結果とを対照させるための参考値として掲げたものであり、世論調査における男女20～29歳の総数は175人、学生の総数は114人である。

2-2 調査票の内容と調査結果

Q13 あなたは、言葉遣いに迷ったり、言葉の意味や使い方が分からなかったりしたときに、どのようにしていますか。この中から幾つでも選んでください。(M.A.)

—回答数41

(ア) 誰かに教えてもらう	76.9% (54.3%) 《51.8%》
(イ) 紙の辞書を引く	7.7% (17.7%) 《23.7%》
(ウ) 電子辞書を引く	100% (26.9%) 《43.0%》
(エ) インターネット上の辞書を利用する	61.5% (82.9%) 《64.0%》
(オ) 言葉に関する紙の本を調べる	0 (5.1%) 《5.3%》
(カ) 言葉に関する電子書籍を調べる	23.1% (5.7%) 《4.4%》
(キ) インターネット上の言葉に関するサイトを利用する	46.2% (41.7%) 《34.2%》
(ク) その他（具体的に： ）	0 (0) 《0.9%》
(ケ) 特に何もせず、そのままにすることが多い	0 (0.6%) 《1.8%》
分からない	0 (0.6%) 《0.9%》

Q14 あなたは、文章を書くときに、漢字の選び方（例えば、「かえる」と書くときに「変える」「替える」「換える」「代える」,「あらわす」と書くときに「表す」「現す」「著す」の、それぞれどれを使うかなど。）で迷うことがありますか、それとも、ありませんか。この中から選んでください。 —回答数13

(ア) よくある	7.7% (20.0%) 《21.1%》
(イ) 時々ある	84.6% (47.4%) 《47.4%》
(ウ) 余りない	0 (25.1%) 《24.6%》
(エ) ない	7.7% (7.4%) 《7.0%》
分からない	0 (0) 《0》

Q15 あなたは、次に挙げる(1)～(5)の下線部の言葉を漢字に直すとしたら、(ア)～(ウ)のどれを使いますか。この中から一つずつ選んでください。 —回答数13

(1) 会議で決を <u>と</u> る	
(ア) 取	38.5% (14.9%) 《14.9%》
(イ) 採	23.1% (62.9%) 《54.4%》
(ウ) 執	15.4% (18.3%) 《20.2%》
(エ) (ア)～(ウ)のうち使うものが二つ以上ある	23.1% (2.3%) 《6.1%》
(オ) (ア)～(ウ)のどれも使わない	0 (0.6%) 《2.6%》
分からない	0 (1.1%) 《1.8%》
(2) 痛みが <u>おさ</u> まる	
(ア) 収	23.1% (8.6%) 《7.0%》
(イ) 納	0 (1.1%) 《2.6%》
(ウ) 治	69.2% (88.0%) 《86.0%》
(エ) (ア)～(ウ)のうち使うものが二つ以上ある	7.7% (2.3%) 《3.5%》
(オ) (ア)～(ウ)のどれも使わない	0 (0) 《0.9%》
分からない	0 (0) 《0》
(3) 標高を <u>は</u> かる	
(ア) 測	69.2% (85.7%) 《88.6%》
(イ) 計	7.7% (10.9%) 《7.0%》
(ウ) 図	0 (1.7%) 《0》
(エ) (ア)～(ウ)のうち使うものが二つ以上ある	23.1% (1.7%) 《4.4%》
(オ) (ア)～(ウ)のどれも使わない	0 (0) 《0》
分からない	0 (0) 《0》
(4) 役に立 <u>つ</u> 本を <u>す</u> ずめる	
(ア) 進	7.7% (0.6%) 《0》
(イ) 勧	53.8% (35.4%) 《40.4%》
(ウ) 薦	23.1% (60.0%) 《54.4%》
(エ) (ア)～(ウ)のうち使うものが二つ以上ある	15.4% (3.4%) 《5.3%》
(オ) (ア)～(ウ)のどれも使わない	0 (0) 《0》

分からない	0 (0.6%)	《0》	(3) 「 <u>ざっくり</u> とした説明」	
(5) 委員長を <u>つとめる</u>			(ア) ある	0 (68.9%) 《69.9%》
(ア) 努	7.7% (6.9%)	《11.4%》	(イ) ない	100% (31.1%) 《30.1%》
(イ) 勤	23.1% (15.4%)	《17.5%》	分からない	0 (0) 《0》
(ウ) 務	38.5% (74.9%)	《66.7%》	(4) 「 <u>気持ち</u> が <u>ほっこり</u> する」	
(エ) (ア)～(ウ)のうち使うものが二つ以上ある			(ア) ある	0 (50.7%) 《54.9%》
	30.8% (1.7%)	《4.4%》	(イ) ない	100% (48.6%) 《45.1%》
(オ) (ア)～(ウ)のどれも使わない	0 (0)	《0》	分からない	0 (0.7%) 《0》
分からない	0 (1.1%)	《0》	(5) 「 <u>うるうる</u> とした瞳」	
			(ア) ある	11.1% (59.3%) 《60.7%》
Q16 あなたは、ここに挙げた(1)～(5)の下線部の言い方を			(イ) ない	88.9% (40.1%) 《39.3%》
聞いたことがありますか。それとも、ありませんか。			分からない	0 (0.6%) 《0》

— 回答数12

(1) 「 <u>きんきん</u> に冷えたビール」			Q17 あなたは、ここに挙げた(1)～(5)の言葉の意味は、それぞれ(ア)と(イ)のどちらだと思いますか。	
(ア) ある	25% (98.9%)	《93.0%》		— 回答数12～13
(イ) ない	75% (1.1%)	《6.1%》	(1) 役不足	(回答数13)
分からない	0 (0)	《0.9%》	(ア) 本人の力量に対して役目が重すぎる	
(2) 「 <u>パソコン</u> が <u>さくさく</u> 動く」				61.5% (49.7%) 《48.2%》
(ア) ある	33.3% (73.1%)	《74.6%》	(イ) 本人の力量に対して役目が軽すぎる	
(イ) ない	66.7% (26.3%)	《25.4%》		38.5% (46.3%) 《48.2%》
分からない	0 (0.6%)	《0》	(ウ) (ア)と(イ)の両方	0 (1.7%) 《0》
(3) 「 <u>ざっくり</u> とした説明」			(エ) (ア)や(イ)とは全く別の意味	0 (1.7%) 《2.6%》
(ア) ある	66.7% (93.7%)	《90.4%》	分からない	0 (0.6%) 《0.9%》
(イ) ない	33.3% (6.3%)	《9.6%》	(2) 流れに掉さす	(回答数12)
分からない	0 (0)	《0》	(ア) 傾向に逆らって、ある事柄の勢いを失わせるような	
(4) 「 <u>気持ち</u> が <u>ほっこり</u> する」			行為をする	41.7% (61.1%) 《68.4%》
(ア) ある	58.3% (83.4%)	《79.8%》	(イ) 傾向に乗って、ある事柄の勢いを増すような行為を	
(イ) ない	41.7% (16.6%)	《20.2%》	する	25% (24.6%) 《21.9%》
分からない	0 (0)	《0》	(ウ) (ア)と(イ)の両方	0 (1.1%) 《0.9%》
(5) 「 <u>うるうる</u> とした瞳」			(エ) (ア)や(イ)とは全く別の意味	0 (2.3%) 《1.8%》
(ア) ある	75% (95.4%)	《98.2%》	分からない	33.4% (10.9%) 《7.0%》
(イ) ない	25% (4.6%)	《0.9%》	(3) 気が置けない	(回答数12)
分からない	0 (0)	《0.9%》	(ア) 相手に対して気配りや遠慮をしなくて良い	

【Q16でそれぞれ(ア)と回答した人に】

SQ それでは、ここに挙げた(1)～(5)の下線部の言い方を			(イ) 相手に対して気配りや遠慮をしなくてはならない	
することがありますか、それとも、ありませんか。				33.3% (47.4%) 《50.0%》
(1) 「 <u>きんきん</u> に冷えたビール」			(ウ) (ア)と(イ)の両方	0 (2.3%) 《0》
(ア) ある	0% (59.0%)	《52.8%》	(エ) (ア)や(イ)とは全く別の意味	0 (6.9%) 《6.1%》
(イ) ない	100% (40.5%)	《46.2%》	分からない	8.3% (1.7%) 《1.8%》
分からない	0 (0.6%)	《0.9%》	(4) 潮時	(回答数13)
(2) 「 <u>パソコン</u> が <u>さくさく</u> 動く」			(ア) ちょうどいい時期	84.6% (52.6%) 《56.1%》
(ア) ある	0 (56.3%)	《44.7%》	(イ) ものごとの終わり	7.7% (43.4%) 《43.0%》
(イ) ない	100% (43.8%)	《55.3%》	(ウ) (ア)と(イ)の両方	0 (2.3%) 《0》
分からない	0 (0)	《0》	(エ) (ア)や(イ)とは全く別の意味	0 (1.7%) 《0.9%》
			分からない	7.7% (0) 《0》

- (5) 噴飯もの (回答数13)
- (ア) 腹立たしくて仕方がないこと 15.4% (44.6%) 《51.8%》
- (イ) おかしくてたまらないこと 61.5% (29.7%) 《28.9%》
- (ウ) (ア)と(イ)の両方 0 (2.3%) 《1.8%》
- (エ) (ア)や(イ)とは全く別の意味 7.7% (4.0%) 《6.0%》
分からない 15.4% (19.4%) 《11.4%》

- (ア) (a)の方を使う 46.2% (69.7%) 《78.1%》
- (イ) (b)の方を使う 38.5% (20.6%) 《14.9%》
- (ウ) (a)と(b)の両方とも使う 7.7% (2.3%) 《0.9%》
- (エ) (a)と(b)のどちらも使わない 0 (6.9%) 《5.3%》
分からない 7.7% (0.6%) 《0.9%》

Q18 あなたは、ここに挙げた(1)～(5)の、かぎ括弧内の内容を表現するとき、それぞれ、(a)、(b)のどちらの言い方を使いますか。 —回答数13

- (1) 「つつけんどんで相手を顧みる態度が見られないこと」を
- (a) 取り付く島がない
- (b) 取り付く暇がない
- (ア) (a)の方を使う 15.4% (55.4%) 《50.0%》
- (イ) (b)の方を使う 46.2% (29.1%) 《34.2%》
- (ウ) (a)と(b)の両方とも使う 7.7% (1.7%) 《0.9%》
- (エ) (a)と(b)のどちらも使わない 15.4% (10.3%) 《14.0%》
分からない 15.4% (3.4%) 《0.9%》
- (2) 「実力があって堂々としていること」を
- (a) 押しも押されぬ
- (b) 押しも押されもせぬ
- (ア) (a)の方を使う 5.4% (50.3%) 《44.7%》
- (イ) (b)の方を使う 38.5% (36.6%) 《40.4%》
- (ウ) (a)と(b)の両方とも使う 0 (1.1%) 《0.9%》
- (エ) (a)と(b)のどちらも使わない 15.4% (9.1%) 《13.2%》
分からない 30.8% (2.9%) 《0.9%》
- (3) 「物事の肝腎な点を確実に捉えること」を
- (a) 的を射る
- (b) 的を得る
- (ア) (a)の方を使う 38.5% (56.0%) 《71.1%》
- (イ) (b)の方を使う 46.2% (39.1%) 《22.8%》
- (ウ) (a)と(b)の両方とも使う 0 (4.6%) 《2.6%》
- (エ) (a)と(b)のどちらも使わない 7.7% (1.7%) 《2.6%》
分からない 7.7% (0.6%) 《0.9%》
- (4) 「いよいよというときに使う、とっておきの手段」を
- (a) 天下の宝刀
- (b) 伝家の宝刀
- (ア) (a)の方を使う 15.4% (22.3%) 《22.8%》
- (イ) (b)の方を使う 61.5% (67.4%) 《65.8%》
- (ウ) (a)と(b)の両方とも使う 0 (1.1%) 《1.8%》
- (エ) (a)と(b)のどちらも使わない 0 (5.7%) 《7.9%》
分からない 23.1% (3.4%) 《1.8%》
- (5) 「激しく怒ること」を
- (a) 怒り心頭に達する
- (b) 怒り心頭に発する

『平成24年度国語に関する世論調査』における調査結果は、概要、単純集計結果、集計表という三つの形式によりまとめられているが、単純集計結果は上述したように、調査票に付記される形となっている。

概要では、各質問内容についての総括とともに、総数、地域ブロック別、性別、年齢別、性・年齢別の結果が帯グラフによって示される。

集計表においては、概要のデータに、都市規模別・職業別の結果が加わり、更に、質問内容のQ1「人の言いたいことが理解できなかった経験」及びQ2「自分の言いたいことが伝わらなかった経験」の有無とのクロス集計の数値が示されている。

本章において括弧書きで参考値として示した男女20～29歳の数値及び学生の数値は、上記の集計表におけるデータである。

3 外国人留学生に対する調査結果の分析

3-1 言葉の意味や使い方を調べる際の意識

前章における調査結果について、以下、分析を加えることにする。

まず、Q13の「言葉の意味や使い方がわからないときの対処法」について考察する。

世論調査全体では、「紙の辞書を引く」が47.3%で最も多く、次いで、「インターネット上の辞書を利用する」43.1%、「誰かに教えてもらう」39.6%、「インターネット上の言葉に関するサイトを利用する」23.2%、「電子辞書を引く」21.8%、「言葉に関する紙の本を調べる」11.1%、「言葉に関する電子書籍を調べる」2.6%、「特に何もせず、そのままにすることが多い」3.9%という結果である。

ただし、年齢別集計では、「紙の辞書を引く」が男女20～29歳で最も低く17.7%、「インターネット上の辞書を利用する」が82.9%で最も高く、本調査の外国人留学生の結果である「紙の辞書を引く」7.7%、「インターネット上の辞書を利用する」61.5%という数値と類似する傾向となる。

また、職業別集計では、「紙の辞書を引く」が「学生」で23.7%、「インターネット上の辞書を利用する」が64.0%という結果であり、「紙の辞書を引く」では、年齢別の男女20～29歳に次ぐ低さとなり、「インターネット上の辞書を利用する」では、年齢別の男女30～39歳に次ぐ高さとなっている。

世論調査における学生、男女20～29歳のデータと外国人留学生に対する本調査のデータには類似する傾向があるが、本調査における結果には、外国人留学生の日本語学習の特徴が際立つ点も見られる（図1参照）。

外国人留学生に対する調査では、「電子辞書を引く」が100%、「誰かに教えてもらう」が76.9%、次いで「インターネット上の辞書を利用する」が61.5%である。電子辞書の使用は際立っており、誰かに教えるを請うという態度も特徴的である。世論調査では、「電子辞書を引く」については、男女20～29歳で26.9%、学生で43.0%（年齢別の男女16～19歳が最も高く、44.6%）、「誰かに教えてもらう」については、男女20～29歳で54.3%、学生で51.8%（年齢別の男女16～19歳が最も高く、56.8%）となり、若年層では外国人留学生に対する調査結果と類似した傾向が見られる。

また、「特に何もせず、そのままにすることが多い」という回答は外国人留学生では0であった。世論調査では、男女20～29歳で0.6%となり、総数における3.9%に対して、かなり低い数値となっているが、職業別の被傭者、管理・専門技術・事務職の0.4%が最も低い（学生は1.8%）。外国人留学生については、外国語としての日本語学習に対する積極的な姿勢がうかがえるところである。

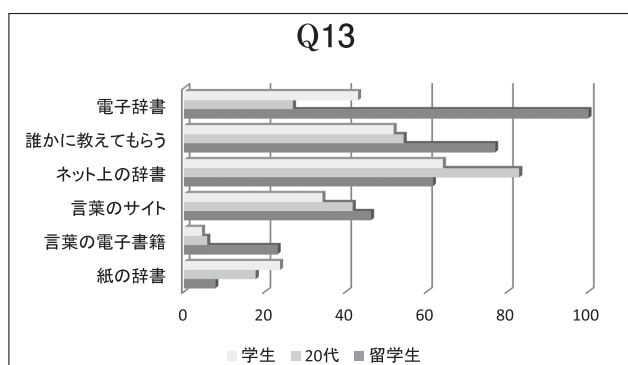


図1・調査結果における特徴的項目 (Q13)

3-2 オノマトペの意味の拡張

Q16及びSQは、オノマトペ（擬音語・擬態語）の使用についての質問内容である。日本語のオノマトペは、分量も多く、しかも多様であり、日本語という言語において特徴的な語群の一つとなっているが、それゆえに外国人留学生にとっては、カタカナ語と同様、難解な語群でもある。

世論調査は、「きんきん」、「さくさく」、「ざっくり」、「ほっこり」、「うるうる」という五つのオノマトペを対象としているが、現代日本語のオノマトペについては豊富な用例と意味・用法を詳述した『現代擬音語擬態語用法辞典』⁽²⁾が上梓されている。同書では、オノマトペについて「活字化できる音声連続及び発音できる文字表記によって対象の様子を表現したもので、一定の形と意味をもち、一定のグ

ループの人々の間で抽象的・普遍的に通用する」⁽³⁾と定義し、見出しが選定されている。多数の理解用例⁽⁴⁾から帰納する意味記述法が取られており、外国人留学生にはオノマトペの意味の理解が容易となる辞典となっている。

調査対象の五つのオノマトペのうち、「ほっこり」は同書では見出し語となっていない。他の語は見出し語として採録されており、「うるうるとした瞳」の用例におけるオノマトペの意味が取り上げられているが、この「うるうる」を除き、「きんきんに冷えたビール」、「パソコンがさくさく動く」、「ざっくりとした説明」という用例における意味には触れられていない。

上記のオノマトペは、その語の本来の意味に対し、拡張された意味での使用例が見られるようになってきているものである。具体的には、本来の意味として、「きんきん」は、金属音のようなかん高い音や声などを形容し、「さくさく」は、軽快なさまやそのような音などを形容し、「ざっくり」は、切ったり割れたりするさまや小石などが触れ合う音などを形容し、「ほっこり」は、暖かそうなさまなどを形容するものであるが、世論調査における「きんきんに冷えたビール」、「パソコンがさくさく動く」、「ざっくりとした説明」、「気持ちがほっこりする」の用例では、いずれも、それらとは異なるさまが形容されている。

なお、用例が豊富に挙げられており、しかも多くの新項目が加わり、新たな用例が数多く採録されている『日本国語大辞典』⁽⁵⁾においては、「ほっこり」について、「気持ちが晴れたり、仕事や懸案のことがかたづいたりして、すっきりとしたさまを表わす語」、「うんざりしたり、困り果てたりするさまを表わす語」という説明があり、「ほっこり」の意味内容として「気分」を表すものも取り上げられているが、江戸後期の用例が挙げられており、古くからの用法であることが確認できる。また、『広辞苑』においても、「もてあまして疲れたさま」⁽⁶⁾という意味の説明があるが、用例は挙げられていない。それらは、「すっきりとする」、「うんざりする」という心の状態の形容ではあるが、「気持ちがほっこりする」の用例において「ほっこり」が形容する心の状態は、それとは異なり、意味の拡張が見られる。拡張された意味での使用例が広がりを見せ、変化の過程にあるのである。

オノマトペにおける意味の拡張という現象について、また、外国人留学生のオノマトペに対する意識に関して考察を進めることとしたいが、紙幅も限られており、他の質問項目についての分析も含め、次稿に委ねることとする。

・付記

島田昌彦金沢大学名誉教授並びに氏原基余司江戸川大学教授（前・文化庁文化語課主任国語調査官）には、本調査を行う契機を与えていただきました。新たな知見を得る端緒となりましたことをここに記し、深甚なる謝意を表しますとともに、衷心より御礼申し上げます。

注

- (1) 『平成24年度国語に関する世論調査』2013年9月，文化庁文化語課・『平成24年度「国語に関する世論調査」の結果の概要』，文化庁
- (2) 飛田良文・浅田秀子『現代擬音語擬態語用法辞典』2002年9月，東京堂出版
- (3) 前掲2，「擬音語・擬態語とは何か」pp. v～viii
- (4) 前掲2，「理解用例」とは，言葉が出力されてくる前提となる状況が文章中に明示されている用例であり，人間の心理が推測可能となる。本書では帰納的意味記述法が取られており，用例は，意味を記述する前提となるものである。用例の数が十分である時には，意味や用法の広がりをもれなくダイナミックに捉えることができる。通常の辞書は演繹の意味記述法が取られており，用例は記述した意味のサンプルとして提示される。
- (5) 『精選版日本国語大辞典全3巻』2006年1月～3月，小学館。なお，精選版には，現代語・新語を中心に第二版に掲載されていない約1500の新項目が収録されており，公式ウェブサイトである「日国.NET」で公募した用例を中心に，約

5000の新しい用例が補充されている。

- (6) 『広辞苑』第六版，2008年1月，岩波書店

参考文献

- ・ 山口伸美『ちんちん千鳥のなく声は—日本人が聴いた鳥の声—』1989年7月，三版，大修館書店
- ・ 国広哲弥『日本語誤用・慣用小辞典』1991年4月，第2刷，講談社
- ・ 笈壽雄・田守育啓『オノマトピア・擬音・擬態語の楽園』1993年9月，勁草書房
- ・ 田守育啓・ローレンス・スコウラップ『オノマトペ—形態と意味—』2001年7月，第2刷，くろしお出版
- ・ 山口伸美『犬は「びよ」と鳴いていた日本語は擬音語・擬態語が面白い』2005年11月，初版6刷，光文社
- ・ 米川明彦・大谷伊都子『日本語慣用句辞典』2008年6月，三版，東京堂出版
- ・ 町田健『変わる日本語その感性』2009年7月，青灯社